

地域FM放送e-niwa平成27年度 第1回 放送番組審議会議事録

1. 開催年月日 平成27年5月22日(金) 18:30~19:30
2. 開催場所 株式会社 あいコミ 恵庭市島松寿町1丁目28-10
3. 総委員数 8名(敬称略)
 - 出席 5名
井内聖副委員長、阿部深貴委員、内倉真裕美委員、吉田孝子委員、早坂剛志委員
 - 欠席 3名
神田美佐子委員長、盤野薫委員、佐藤悠菜委員
 - 放送事業者側出席 5名
代表取締役 三浦孝史、取締役局長 北岡昌洋、取締役 木内克昌、
スーパーアドバイザー 松崎霜樹、職員 三浦 真吾、取締役 鶴田力

4. 代表取締役挨拶

丁度6年目。4月から番組内容も大幅に変わり、またスタッフも変わった。内容も良くなってきている。本日は今年度第一回目の番組審議会ですので、番組の内容等、忌憚のない様々なご意見頂きたい。また、少しずつでも聞いている方に喜んでもらえるような、また楽しんでもらえるような番組を作っていきたい。そして、やっぱり恵庭にはラジオが必要だと言っただけのように努力して参りたいと思います。番組に対する忌憚のないご意見も含めて、ご協力お願い致します。

5. 審議副委員長挨拶

僕は幼い頃から、テレビよりラジオ派でした。e-niwaで二つ印象的なことがあります。一つ目は、昨年の大雨で漁川の水位が上がったとき、どこから情報を取ろうかと思ったときがありました。職場のすぐ隣で漁川が流れていて、そのときに一番情報を取るのが速いのはe-niwaかもしれないと思いチャンネルを合わせました。テレビやネットでは得られない防災の情報は、ラジオだろうと思いました。そして二つ目です。僕は、仕事の関係で札幌に車で行くことが多くあります。そのとき、車が自動的にラジオの周波数を合わせてくれるのですが、恵庭の近くになると77.8MHzに合わせてくれて、そのときに、「ああ、恵庭に帰ってきたんだな」と思うことです。

地元にはラジオ局があるということは誇りだと思います。今後よりいいものになればいいなと思っています。本日はよろしくお願い致します。

6. 現状報告

三浦真吾編成プロデューサー：4月の番組改編全般の説明をさせていただきます。まず、スタッフが変わり、それに伴って番組の担当が変わりました。新人の渡辺が月～金の朝の8時～10時、DJワンマンスタイルで行っています。水曜日はパーソナリティー研修を受講した水野みどりさんとマダムウエモリさんのコーナーがあります。また、8時台は道内のコミュニティー放送局と電話中継をしています。また、10時から12時は昨年の7月からスタートしている月～木の「スキップ！」という番組があります。これも、担当が変わりまして、白崎亜紀子と滝沢貴之が担当しています。また、主婦層を中心に日替わりレギュラーパーソナリティーが出演し、コーナーを担当しています。午後1時からの「エッセンス」と午後5時からの「ゆうがったえっせんす」に関しては大きな変更点はありません。金曜日午後10時から午後3時の「金曜日しろくま通信」は日曜日に再放送しています。その他、市民パーソナリティーの番組、他局の番組やミュージックバードという衛星放送を放送しています。

7. 審議事項

(1) 4月からの番組改編について

(2) 番組審議委員会の開催方法・委員会構成・開催時期・審議内容

8. 審議内容

(1) 4月からの番組改編について

Aさん：朝の時間帯は、通勤時間や職場で聞いていて、渡辺さんの明るい声でいつも聞かしてもらっています。

スーパーアドバイザー 松崎霜樹：コミュニティー放送が始まったのは20年ほど前のことで、地域ラジオは、一般市民の皆さんは、いままで聞いていたHBCラジオやAir-Gのような放送局のものと似ているもので、その小さいものだと感じている方が多くいます。しかしコミュニティー放送はそれとはまったく違います。審議委員のみなさんにそのことをご理解いただきたい。道内全域をカバーしている放送局は、大きなスポンサーがつかますし、スタッフの数もコミュニティー放送局とは違います。多くの人間が関わる、道内の大きな放送局でも番組を作ることは大変な労力のかかることです。地域FMでは多くの人を雇えるわけではありませんし、運営は数人で行っているのが実態です。数人の社員と、それ以外は市民が作っていかなくてはならないということです。コミュニティー放送局は一般の市民に支えられているラジオということです。そうすると、放送は素人が作るようになることが前提となります。職業としてラジオをやっている玄人のような放送は出来ないけれども、聴いていて為になる、役に立つ、そして他のメディアでは手に入らない情報を手にすることができます。その上で、「自分の町のラジオ」と思ってもらうにはどうすればいいのか。それは聞いている人が自分の街のラジオとして誇りを持てるようなクオリティーであり、そのような編成を目指すことです。そういう意味では、しらくま通信は、局職員全員で作ることで職員の連携を高め、そしてこの番組で得た情報などを自分の番組に生かしていくという考えの元作られたものです。またもう一つは、FMパンプキンの時代に、たくさんの市民の方々がたくさん関わっていた。しかし、地域ラジオの歴史が浅かったこともあり、公共の電波の取り扱いやモラル、道徳心等が理解されていなかった。これは地域FMが出来るたびに起こることです。その時代を終え、今は新たに再生を図っている段階です。現在は、放送法を理解して頂き、自由には出来ないけれどもやってもらうという過程です。そんな中で、午前中のスキップ！という番組はインキュベーション(孵化装置)として、市民パーソナリティーを独り立ちさせるよう勉強している最中です。それがもう間もなく準備が整いそうで、ディレクターが一人ついて市民パーソナリティーが生放送を作れる時期が近づいているという段階です。そんなことを繰り返しながら、市民パーソナリティーを育てていこうとしています。おととしの五月に総務省が、地域FM放送を基幹放送局としました。それは東日本大震災がきっかけで、地域の人的資本の集積場として位置づけています。審議委員の皆さんには、そんなことも踏まえて番組のことについて叱咤激励いただきたく思います。

Bさん：コミュニティー放送も聴取率調査をするのでしょうか。

スーパーアドバイザー 松崎霜樹：しています。この局はまだ実施していませんが、局の金銭的な体力が付き、地域の皆さんにある程度認識されてきた段階で実施し、今後の営業に生かしていきます。

Bさん：しらくま通信はターゲットが決まっているので、恵庭の私立の保育園等であれば保護者にアンケートを採ることは可能だと思います。正式な聴取率でなくても、実際に子育てをしている世代がどれくらい聞いているのかなどを聞くことも出来ると思います。

三浦真吾編成プロデューサー：参考として、しらくま通信内で保育園や幼稚園の取材やゲストイン等はお願いしています。

スーパーアドバイザー 松崎霜樹：他局では防災に関する覚書をお互に知っているところもあります。恵庭でもそれは可能だと思います。

Cさん：昼にラジオをつける方がいますが、私の職場では電波が届かないため、違う局を聞いてしまっています。

Dさん：私の職場もあまり電波が届きませんが、聞いていきたいと思う。今の松崎さんのお話を聞いていると、いつ起こるかかわからない災害に備えて、地域に密着したラジオ局を大切にするためにも、職場でも取り上げていきたいなあと思っているところです。回りに e-niwa を聞いているという人もなかなかいないので、聞いてもらえるようにしていきたい。

スーパーアドバイザー 松崎霜樹：恵庭は基幹産業が農業であるので、e-niwa でも農業を取り扱う番組を作っていくことが大切でしょう。

Eさん：以前出演させていただきました。せっかく道の駅にあるので、「かのな」の情報や道の駅に訪れた人に「恵庭に何しに来られたのですか？」と聞くのも面白いと思う。特にこれからの季節はお花を見に来る方も多し。なるべくリアルタイムの作られたもの以外の新鮮なものを放送していくのが良いと思う。

Aさん：紙媒体とは違って、手を動かしながらでも聞けて、通勤の途中でも聞くことができるのがラジオです。紙面にはない良さや情報の速さが本当に大切だと感じている。今後も協力していきたいなあと思いました。

Bさん：素朴な質問なんですけど、10年後具体的にどんな姿になっていたらいいのですか？

代表取締役 三浦孝史：市民参加をしていることがポイント。市民参加も様々で仕事での繋がりや文化的な活動での繋がり、また年齢層ではお年寄りや子育て世代など色々な世代の方々に協力いただけることが大切である。10年後は色々な層の人たちが気楽に放送に関わっている姿になっているといい。こちらから情報を発信するだけでなく、双方向でやり取りできるようになれば、ラジオ局が必要だと思ってもらえるはずだ。

Bさん：インターネットだと自分から情報を取りにいかなくてはいけないが、ラジオだとつけていれば情報が入ってくるので、特に高齢者の方々には役に立つツールだと感じる。

代表取締役 三浦孝史：今、力を入れてやっていきたいことは情報弱者である一人暮らしやお年よりにとって聞いてもらえるようにすること。たとえば防災ラジオがある。防災ラジオは県域放送を聞いていても割り込んで放送を聞いてもらうことができるシステムである。そんなに高価なものではないが、全戸配布は難しいため、まずは一人暮らしやお年寄りの家に貸し出しをして、聞いてもらえるようにしたい。そして災害時に避難するときの仕組みを町内会で作っていきたい。出来るところからということで、理解のある町内会や一人暮らしやお年寄りを把握している町内会に協力を提案している。そして市にも提案しているが、新しいことをはじめるには反応が鈍い。しかし、諦めないで説得し、実現していきたい。地域の人々に必要とされるよう、ラジオの理解を深めていきたい。

(2) 番組審議委員会の開催方法・委員会構成・開催時期・審議内容

Cさん：委員さんを増やすこともよいかも。お昼にやると若いお母さんたちも出てかれるので時間帯を変えることも考えてほしい。

Bさん：審議会は年間6回以上開催してもいいなら、委員の数を増やして、昼と夜開催して来れる方に来ていただくというのはどうでしょうか。毎回必ず行かなくてはいけないというのをなくしたい。

(3)その他

Cさん：去年から職場の情報を提供させていただいているのですが、情報を提供ばかりしている感じがするのですがいいのでしょうか。

三浦真吾編成プロデューサー：聞いている方にとって有益な情報であればとても役に立つことですし、情報をいただけるのはありがたいことです。

Eさん：今はFacebookなども使われている方が多いので、情報をそのようなツールも使っていくことも出来ると思う。Facebookから情報を取ってくることもいいかもしれません。恵庭市内には情報がたくさんあるけれど、生かされていないことが多いので、もっと活用すべき。

Dさん：ゲストなどの写真をインターネットに載せていくこともどんどんしていきたい。

9. 審議会の答申又は、意見の概要を公表した場合の公表内容

公表方法 自局内放送および掲示板にて

公表内容 上記の概要

公表年月日 平成27年 6月 30日